

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2024 年度 第 1 回 FD・SD 委員会
議事次第

開催日時：2024 年 5 月 7 日（火）10:30～11:30

開催場所：Zoom（オンライン）

委員校：甲南大学（委員長校）・神戸市看護大学（副委員長校）

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、
神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、
神戸常盤大学、神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、
宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学

計 23 校

I. 開会

1. 委員長・副委員長挨拶
2. 委員紹介 (資料 1)
3. 大学コンソーシアムひょうご神戸について (資料 2)

II. 協議事項

1. 2024 年度 FD・SD 委員会事業計画（詳細）・予算について (資料 3)
2. その他

III. 報告事項

1. 加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開について (資料 4)
2. その他

IV. 懇談事項

1. 2024 年度「FD・SD セミナー」について (資料 5)
2. その他

V. 連絡事項

1. 定時総会 日時：6 月 5 日（水）15:00～16:30
2. 2024 年度 FD・SD 委員会の開催予定・主な議題について
第 2 回（9 月）：2024 年度タイプ 3 プラットフォーム型申請に向けた実績と自己評価（案）について
第 3 回（12 月）：2024 年度事業自己評価（案）について
第 4 回（翌 2 月）：2025 年度事業計画・予算（案）
第 5 回（翌 3 月）：2025 年度事業報告・決算（案）

以上

< 資料一覧 >

資料 1-1：2024 年度 FD・SD 委員会名委員

資料 1-2：2024 年度 第 1 回 FD・SD 委員会出席者名簿

資料 2-1：2024 年度 正会員一覧

資料 2-2 : 2024 年度 賛助会員一覧

資料 2-3 : 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

資料 3 : 2024 年度事業計画（詳細）・予算について

資料 4-1 : 「加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開」 情報共有の仕組み

資料 4-2 : コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー情報提供フォーム

資料 4-3 : コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー実績報告フォーム

資料 5 : 2023 FD・SD 事業に関するニーズ調査（FD・SD 委員会）回答まとめ

参考資料 1 : 大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期（2022～2026）

参考資料 2 : 事業委員会の運営に関する申し合わせ

参考資料 3 : 2023 年度 FD・SD 委員会事業報告・決算

No.	加盟校数	学校名	所属	役職	氏名
1	1	芦屋大学	臨床教育学部	教授	竹安 知枝
2		芦屋大学	事務室	事務長	新谷 隆之
3	2	関西国際大学	社会学科	高等教育研究開発センター長(准教授)	中嶋 康二
4		関西国際大学	教育開発課	課長	木村 泰教
5	3	関西学院大学	高等教育推進センター	センター長 教職教育研究センター教授	小谷 正登
6		関西学院大学	高等教育推進センター事務課	課長	小田 秀邦
7	4	関西学院短期大学	高等教育推進センター	センター長 教職教育研究センター教授	小谷 正登
8		関西学院短期大学	高等教育推進センター事務課	課長	小田 秀邦
9	5	甲南大学	副学長・FD委員会	委員長	高 龍秀
10		甲南大学	全学教育推進機構事務室	次長	林 正樹
11	6	神戸大学	総務部人事課	課長	中谷 充宏
12		神戸大学	総務部人事課	専門職員	畑田 沙紀
13	7	神戸海星女子学院大学	神戸海星女子学院大学	副学長	尾崎 秀夫
14		神戸海星女子学院大学	大学事務室	事務長	下田 学
15	8	神戸学院大学	全学教育推進機構	機構長	生田 卓也
16		神戸学院大学	全学教育推進機構室	事務部長	大谷 啓輔
17	9	神戸市看護大学	看護学部	教授	林 千冬
18		神戸市看護大学	経営管理課	職員	岸本 有史
19	10	神戸松蔭女子学院大学	神戸松蔭女子学院大学	副学長	橘 ゆかり
20		神戸松蔭女子学院大学	教務課		藤井 美帆
21	11	神戸女子大学	教育学部	教授	谷山 優子
22		神戸女子大学	学長室	課長	周東 宗伯
23	12	神戸女子短期大学	教育学部	教授	谷山 優子
24		神戸女子短期大学	学長室	課長	周東 宗伯
25	13	神戸親和大学	教育学部教育学科	FD推進委員会委員長	間瀬 泰尚
26		神戸親和大学	学長室	室長	高田 智司
27	14	神戸常盤大学	こども教育学科	教授	山下 敦子
28		神戸常盤大学	法人本部 運営管理課	課長	小谷 伸一
29	15	神戸薬科大学	薬品化学研究室	教授	上田 昌史
30		神戸薬科大学	教務課	課長	中山 尋量
31	16	頌栄短期大学		教授	山中 早苗
32		頌栄短期大学	総務部総務課	課員	近藤 実咲
33	17	園田学園女子大学	人事課	課長	下田 祐子
34		園田学園女子大学	人事課		竹内 佐知子
35	18	園田学園女子大学短期大学部	人事課	課長	下田 祐子
36		園田学園女子大学短期大学部	人事課		竹内 佐知子
37	19	宝塚医療大学	保健医療学部	学部長	小幡 太志
38		宝塚医療大学	学長企画室	課長	蚊崎 洋介
39	20	兵庫大学	FD・SDオフィス	副オフィス長	吉原 恵子
40		兵庫大学	FD・SDオフィス	調査役	西岡 耕三郎
41	21	兵庫大学短期大学部	FD・SDオフィス	副オフィス長	吉原 恵子
42		兵庫大学短期大学部	FD・SDオフィス	調査役	西岡 耕三郎
43	22	兵庫教育大学	大学院学校教育研究科 教育実践高度化専	学長特別補佐(FD推進担当)	山中 一英
44	23	兵庫県立大学	兵庫県立大学	副学長	内田 勇人
45		兵庫県立大学	教育企画部大学教育改革室教育改革課	課長	松崎 総太郎

学校	No	大学名	所属部署	役職名	出席者名
1	1	芦屋大学	事務室	事務長	新谷 隆之
2	2	関西国際大学	教育開発課	課長	木村 泰教
3	3	関西学院大学	高等教育推進センター事務課	課長	小田 秀邦
4	ー	関西学院短期大学	高等教育推進センター事務課	課長	小田 秀邦
5	4	甲南大学	副学長・FD委員会	委員長	高 龍秀
	5	甲南大学	全学教育推進機構事務室	次長	林 正樹
	6	甲南大学	全学教育推進機構事務室	課長補佐	溝端 祐介
	7	甲南大学	全学教育推進機構事務室		中田 真太郎
6	8	神戸大学	総務部人事課	課長	中谷 充宏
7	9	神戸海星女子学院大学	大学事務室	事務長	下田 学
8	10	神戸学院大学	全学教育推進機構室	事務部長	大谷 啓輔
9	11	神戸市看護大学	経営管理課	職員	岸本 有史
10	12	神戸松蔭女子学院大学	教務課		藤井 美帆
11	13	神戸女子大学	学長室	課長	周東 宗伯
12	ー	神戸女子短期大学	学長室	課長	周東 宗伯
13	14	神戸親和大学	学長室	室長	高田 智司
14	15	神戸常盤大学	法人本部 運営管理課	課長	小谷 伸一
15	16	神戸薬科大学	教務課	課長	中山 尋量
16	17	頤栄短期大学		教授	山中 早苗
	18	頤栄短期大学	総務部総務課	課員	近藤 実咲
17	19	園田学園女子大学	人事課		竹内 佐知子
18	ー	園田学園女子大学短期大学部	人事課		竹内 佐知子
19	20	宝塚医療大学	保健医療学部	学部長	小幡 太志
	21	宝塚医療大学	学長企画室	課長	蚊崎 洋介
20	22	兵庫大学	FD・SDオフィス	調査役	西岡 耕三郎
	23	兵庫大学	FD・SDオフィス	室長	大平 曜子
21	ー	兵庫大学短期大学部	FD・SDオフィス	調査役	西岡 耕三郎
	ー	兵庫大学短期大学部	FD・SDオフィス	室長	大平 曜子
23	24	兵庫県立大学	兵庫県立大学	副学長	内田 勇人
	25	兵庫県立大学	教育企画部大学教育改革室教育改革課	課長	松崎 総太郎

2024年度 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 正会員一覧
◆正会員数 36校(29大学、6短期大学・短期大学部、1高等専門学校)

資料2-1

(敬称略)

NO	法人名	大学・学校名	学長・校長	備考
1	独立行政法人国立高等専門学校機構	1 明石工業高等専門学校	土居 信数	
2	芦屋学園	2 芦屋大学	窪田 幸子	
3	大手前学園	3 大手前大学	平野 光俊	
		4 大手前短期大学	福井 洋子	
4	濱名山手学院	5 関西国際大学	濱名 篤	
5	関西金光学園	6 関西福祉大学	加藤 明	
6	関西学院	7 関西学院大学	森 康俊	
		8 関西学院短期大学	碓氷 ゆかり	2024年度新任
7	甲南学園	9 甲南大学	中井 伊都子	
8	甲南女子学園	10 甲南女子大学	秋元 典子	
9	国立大学法人神戸大学	11 神戸大学	藤澤 正人	
10	都築学園	12 神戸医療未来大学	鎌田 積	
11	海星女子学院	13 神戸海星女子学院大学	石原 敬子	
12	神戸学院	14 神戸学院大学	中村 恵	
13	谷岡学園	15 神戸芸術工科大学	松村 秀一	2024年度新任
14	八代学院	16 神戸国際大学	下田 繁則	2024年度新任
15	神戸市公立大学法人神戸市外国語大学	17 神戸市外国語大学	田中 悟	
16	公立大学法人神戸市看護大学	18 神戸市看護大学	江川 幸二	
17	松蔭女子学院	19 神戸松蔭女子学院大学	徳山 孝子	2024年度新任
18	神戸女学院	20 神戸女学院大学	中野 敬一	
19	行吉学園	21 神戸女子大学	栗原 伸公	
		22 神戸女子短期大学	栗原 伸公	
20	親和学園	23 神戸親和大学	松田 恵示	2024年度新任
21	玉田学園	24 神戸常盤大学	濱田 道夫	
22	神戸薬科大学	25 神戸薬科大学	北川 裕之	
23	頌栄保育学院	26 頌栄短期大学	関田 良	
24	園田学園	27 園田学園女子大学	大江 篤	
		28 園田学園女子大学短期大学部	大江 篤	
25	平成医療学園	29 宝塚医療大学	岸野 雅方	
26	弘徳学園	30 姫路大学	郷間 英世	2024年度新任
27	睦学園	31 兵庫大学	河野 真	
		32 兵庫大学短期大学部	河野 真	
28	国立大学法人兵庫教育大学	33 兵庫教育大学	加治佐 哲也	
29	兵庫県公立大学法人	34 兵庫県立大学	高坂 誠	
		35 芸術文化観光専門職大学	平田 オリザ	
30	中内学園	36 流通科学大学	清水 信年	2024年度新任

◆賛助会員数 45社

	会員名	業種	入会年度	コンソとの連携事業			
				国際交流	学生交流	キャリア	企画運営
1	株式会社 あみだ池大黒	食料品（菓子製造販売）	2022年度		○	○	
2	イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社	海外留学プログラムの販売促進	2023年度			○	
3	株式会社ECC	教育関連	2018年度			○	
4	株式会社池田泉州銀行	普通銀行業務	2018年度			○	
5	エム・シーシー食品株式会社	調理食品専門メーカー	2022年度	○		○	
6	株式会社オークハウス	不動産業	2024年度				
7	大阪中小企業投資育成株式会社	投資育成業	2023年度			○	
8	株式会社学生情報センター	不動産	2007年度			○	
9	株式会社グローパルトラストネットワークス	金融・保険・不動産業	2023年度			○	
10	神戸商工会議所	経済団体	2018年度			○	○
11	神戸トヨペット株式会社	自動車販売	2018年度			○	
12	是川ホンダ販売株式会社	自動車販売、点検、整備、保険等	2024年度				
13	株式会社サンエース	商社・住宅（リフォーム）	2022年度			○	
14	株式会社JTB 神戸支店	旅行業	2018年度	○		○	○
15	株式会社シマブンコーポレーション	鉄鋼卸売	2022年度			○	
16	株式会社シュゼット・ホールディングス	製造業（菓子・パン類）	2023年度			○	
17	新明和工業株式会社	メーカー	2023年度			○	
18	医療法人社団星晶会	医療福祉	2022年度			○	○
19	センコー株式会社 阪神主管支店	物流	2022年度			○	
20	総合警備保障株式会社	サービス業（警備）	2023年度			○	
21	株式会社TAT	商社	2016年度			○	○
22	東洋証券株式会社	証券業	2021年度				
23	ナガセケムテックス株式会社	化学メーカー	2022年度		○		
24	株式会社日本ツアーサービス	旅行業	2021年度				
25	日本通運株式会社 大阪支店	陸運業・物流業・倉庫業他	2023年度			○	○
26	日本テクノロジーソリューション株式会社	テクノロジー事業・他	2016年度			○	○
27	株式会社日本ビジネスデータープロセッシングセンター	ITソリューション事業・他	2020年度			○	○
28	株式会社ノーリツ	ガス・石油機器製造	2022年度			○	
29	株式会社ノザワ	製造業（窯業）	2024年度				
30	白鶴酒造株式会社	清酒製造業	2022年度			○	
31	株式会社パソナグループ	総合人材サービス・他	2022年度			○	
32	バンドー化学株式会社	製造業	2019年度			○	○
33	兵庫県経営者協会	経済団体	2020年度			○	
34	富士通Japan株式会社	情報・通信業	2007年度				
35	株式会社ブレックス	運輸業	2018年度			○	
36	丸善雄松堂株式会社	小売業	2007年度			○	○
37	株式会社マルヤナギ小倉屋	食品	2023年度		○		○
38	株式会社みなと銀行	銀行業	2016年度			○	○
39	株式会社山上	商社	2023年度			○	
40	株式会社ヤマシタワークス	製造業	2023年度			○	
41	株式会社立成社	スポーツ・教育	2022年度		○		
42	株式会社レック	冠婚葬祭	2016年度			○	
43	株式会社ロジックアンドサプライズ	外国人材採用支援業・他	2013年度				○
44	株式会社ロック・フィールド	食料	2016年度			○	
45	和田興産株式会社	不動産業	2017年度			○	○

設立

2006年6月12日（2016年4月1日 一般社団法人を設立）

正会員

36校（29大学、6短期大学・短期大学部、1高等専門学校）

特別会員

1団体（独立行政法人 日本学生支援機構）

賛助会員

45社

学生数

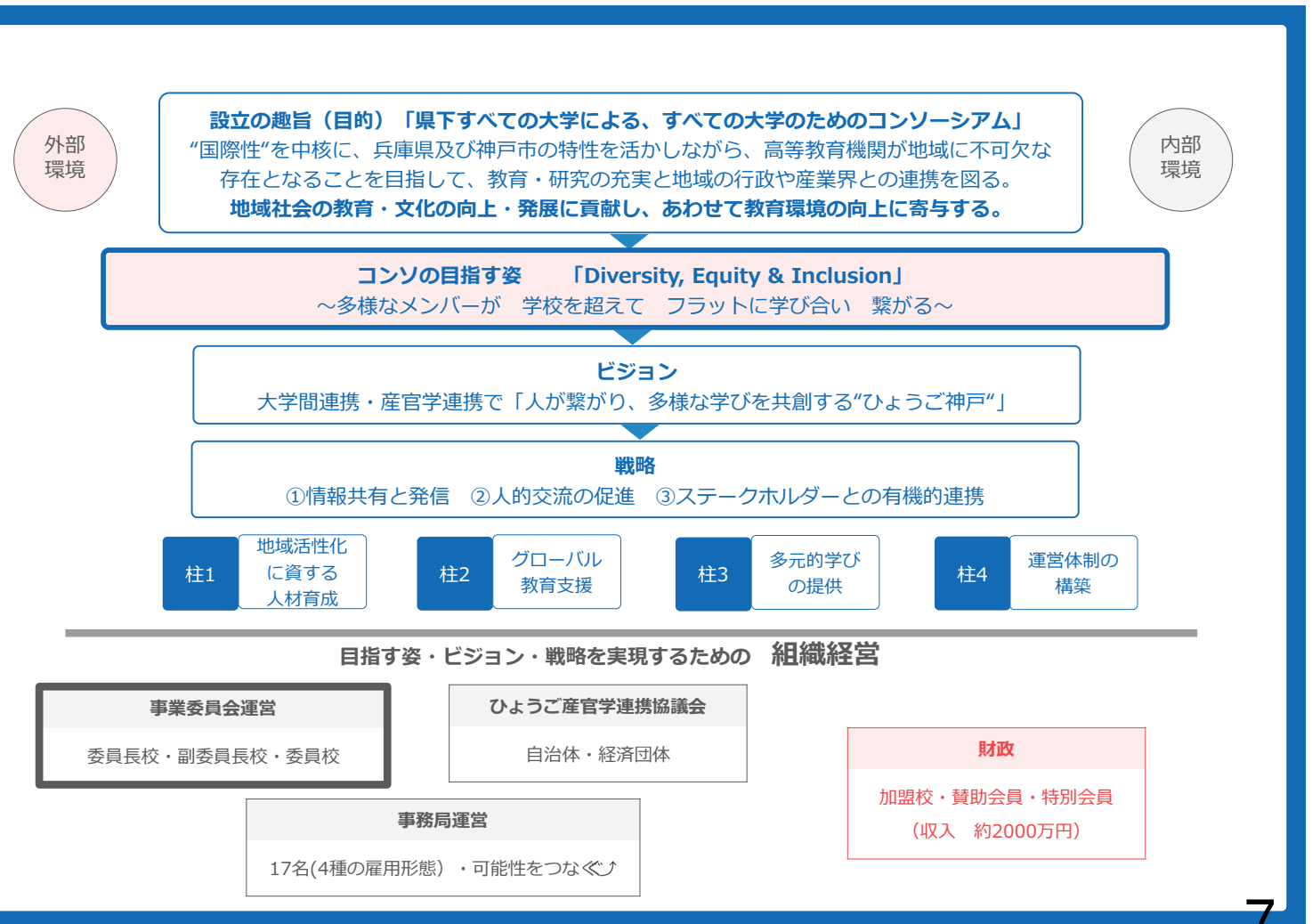
約11万人

趣旨

国際性を中核に、兵庫県の特性をいかし、教育水準の向上と地域振興に貢献

事業

国際交流、学生交流、教育連携、キャリア
高大連携、FD・SD事業を中心に、
大学間連携、産官学連携を展開



一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画第Ⅱ期 基本方針・概要図

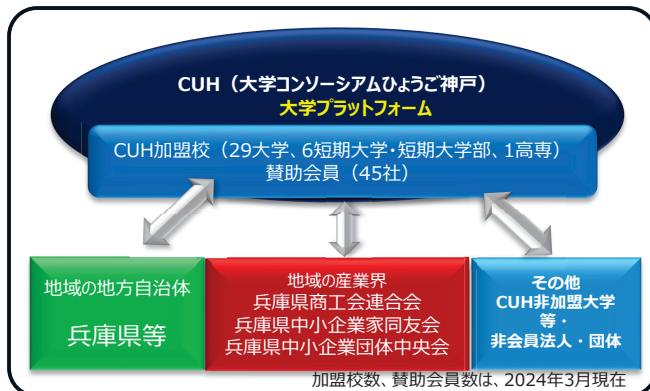
【基本方針】

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期（2017年4月1日～2022年3月31日）における取組内容とその成果を発展的に継承して、中長期計画Ⅱ期（2022年4月1日～2027年3月31日）を策定する。
さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多面的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多面的な教育活動に寄与する計画とする。

【ビジョン・目標】 大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

- ・自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発する。
- ・人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する取組を通じて、地域と大学の魅力を県内外に発信する。
- ・大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる活動を展開する。

プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



【取り組みの概要】

- 1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携**
 - ① 地域の活性化のための県内企業就職率の向上
(加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携)
 - ② 県内大学と高校間の連携による円滑な高大接続
 - ③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
- 2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援**
 - ④ 外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進
 - ⑤ 外国人留学生と日本人学生等の交流促進
- 3. 県内大学の教育・研究の質を高める多面的学びの提供**
 - ⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
 - ⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応
 - ⑧ 県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進
- 4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築**
 - ⑨ 大学資源を活用する地域プラットフォームの形成
 - ⑩ 県内大学が活性化する事業運営体制の整備

参考：大学コンソーシアムひょうご神戸 ホームページ <http://www.consortium-hyogo.jp/sankangaku/index.html>

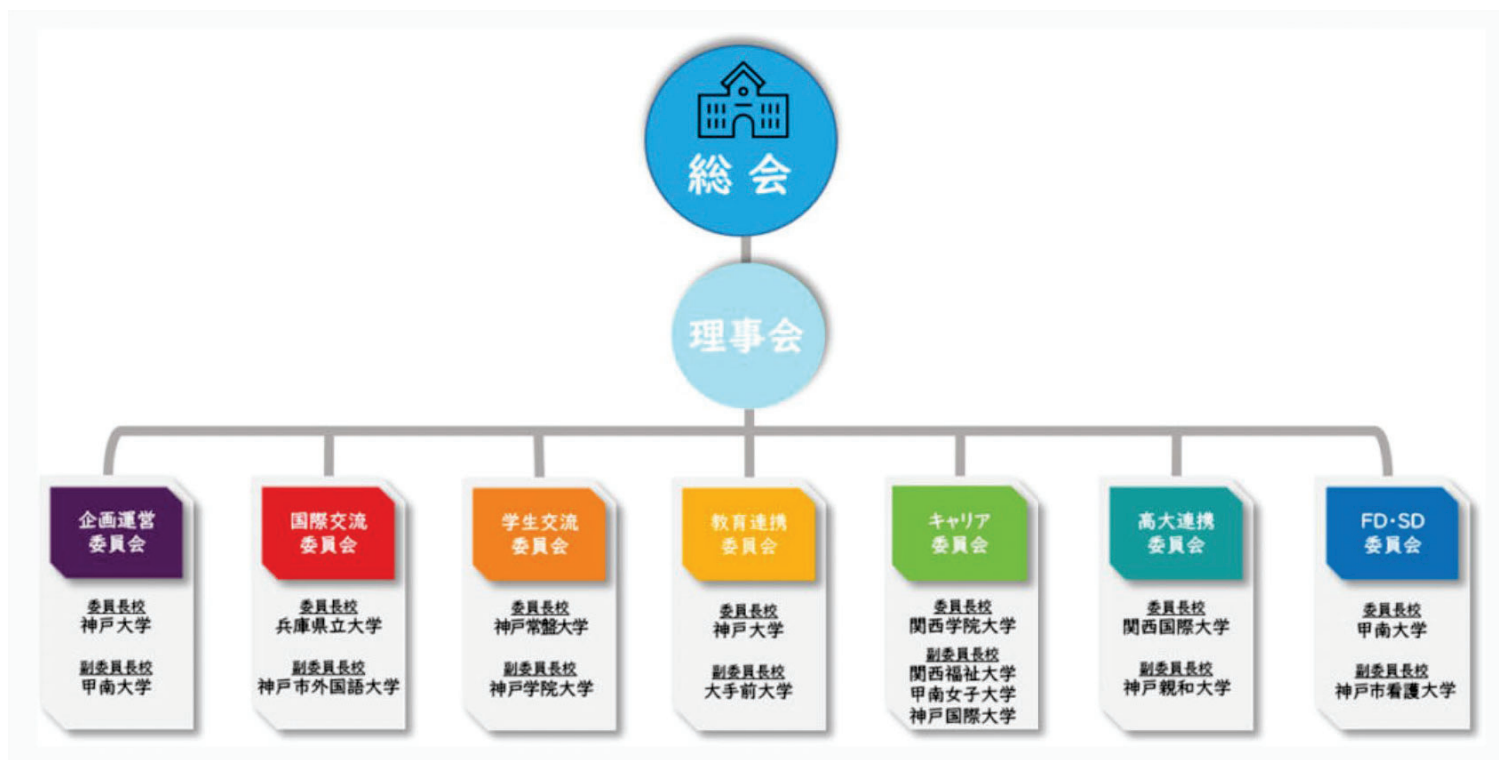
© Presentation Design

中長期計画Ⅱ期（2022年度～2026年度）の柱と課題 ＜2024年度＞

「4つの柱」に基づいて、「10課題・20取組」を7委員会(国際交流、学生交流、教育連携、高大連携、キャリア、FD・SD、企画運営)において実施

柱	課題	取組	委員会
1 地域活性化に資する 人材育成のための連携	1 地域の活性化のため 県内企業への就職率の向上	取組1-1 「兵庫県」大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プログラム	キャリア
		取組1-2 「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	キャリア
		取組1-3 県内企業・団体等の魅力を情報発信	キャリア
	2 県内大学と高等学校間の 連携による円滑な高大接続	取組1 大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」	高大連携
		取組2 加盟校の魅力を情報発信	高大連携
	3 大学の枠を超えた学生間の 交流・活動促進	取組1 テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」	学生交流
2 “ひょうご神戸”の 国際性を生かした グローバル教育支援	4 外国人留学生の受け入れ体制 の強化・定着促進	取組1-1 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	キャリア
		取組1-2 「兵庫県」外国人留学生採用ワンストップ支援事業	キャリア
	5 外国人留学生と日本人学生等 の交流促進	取組1 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施	国際交流
		取組2 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業	国際交流
	6 大学教職員の研修機会の提供 と交流の促進	取組1 加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	FD・SD
		取組2 FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	FD・SD
3 県内大学の 教育・研究の質を 高める 多面的学びの提供	7 大学間連携による多様な 教育ニーズへの対応	取組1 単位互換事業	教育連携
		取組2 多様な学修機会の提供	教育連携
	8 県内大学を活用した 社会人の学びなおしの推進	取組1 リカレント教育の普及促進に向けた取組	企画運営
		取組2 加盟校のリカレント教育に関する情報発信	企画運営
	9 大学資源を活用する 地域プラットフォームの形成	取組1 大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築	企画運営
		取組2 緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	企画運営
4 県内大学が活性化 する 大学間連携組織 としての 運営体制の構築	10 県内大学が活性化する 事業運営体制の整備	取組1 加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	企画運営

大学コンソーシアムひょうご神戸 組織図



加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築

* 事業委員会の運営に関する申し合わせから抜粋

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

(1) 任期は2年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないよう配慮する。

(2) **国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選択制とし、キャリア委員会及びFD・SD委員会の委員長校の選考は輪番制とする。**

(3) 6事業委員会の副委員長校の選考は、選択制とする。

(4) 任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選択制】

① 選択制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選択することとする。

② 事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・ 輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

2023年～2025年の事業委員会 委員長校・副委員長校

中長期計画		I 期	II 期					III 期
役員改選期		第3期	第4期		第5期		第6期	
事業委員会体制(案)		2年間	1年間	3年間(1年間+2年間)			2年間	
		2020・2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
国際交流委員会	委員長校	神戸大学	兵庫県立大学	兵庫県立大学				
	副委員長校	神戸市外国語大学・神戸常盤大学	神戸市外国語大学	神戸市外国語大学				
学生交流委員会	委員長校	神戸親和女子大学	神戸常盤大学	神戸常盤大学				
	副委員長校	甲南大学	神戸親和女子大学	神戸学院大学★				
教育連携委員会	委員長校	兵庫県立大学	神戸大学	神戸大学				
	副委員長校	大手前大学・兵庫医療大学	大手前大学	大手前大学				
高大連携委員会	委員長校	関西国際大学		関西国際大学				
	副委員長校	神戸松蔭女子学院大学	甲南大学・神戸松蔭女子学院大学	神戸親和大学★				
キャリア委員会	委員長校	関西学院大学		関西学院大学			神戸学院大学★	
	副委員長校	関西福祉・甲南女子大学・神戸国際大学		関西福祉大学・甲南女子大学・神戸国際大学				
FDSD委員会	委員長校	神戸学院大学		甲南大学★			神戸親和大学★	
	副委員長校	兵庫大学・神戸薬科大学		神戸市看護大学★				

★変更大学

キャリア委員会、FD・SD委員会の輪番制について

任期	キャリア委員会	FD・SD委員会
第6期（2026-27）	神戸学院大学	神戸親和大学
第7期（2028-29）	甲南大学	関西学院大学
第8期（2030-31）	関西国際大学	神戸学院大学
第9期（2032-33）	神戸常盤大学	神戸市外国語大学
第10期（2034-35）	神戸市外国語大学	神戸常盤大学
第11期（2036-37）	兵庫県立大学	神戸市看護大学
第12期（2038-39）	神戸市看護大学	神戸大学
第13期（2040-41）	神戸大学	関西国際大学
第14期（2042-43）	神戸親和大学	兵庫県立大学

備考：第15期以降は、状況の変化も想定されるため、第14期の理事校で決定する。

委員長校	甲南大学
副委員長校	神戸市看護大学
委員校 (全:23校)	芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学 神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学 頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 兵庫教育大学、兵庫県立大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
達成目標	各年セミナー5件以上
活動指標	参加者数100人以上／年
取組2	＜FD・SD情報交換会、セミナー等の開催＞大学教育等に関する講演会等の開催
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	開催数:3回以上／年

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。
以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

予算額	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
	取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
	取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

期待される効果

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。		
課題を解決する取組概要	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開		
活動指標	参加者数100人以上/年		
計画(4月記載)		自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
1. 情報収集 Webフォームにて加盟校のFD・SDセミナー(学外公開可のもの)の情報収集を行う。 2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行う。 3. 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求める。 【参考】2023年度の情報提供テーマ例 「Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について」 「大学の授業と著作権について」 「大学入学者選抜の過去・現在・未来」			
達成目標に対する実績			
活動指標に対する実績			
自己評価基準: 対到達目標 ※			—
自己評価基準: 対継続性 ※			—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
0円				
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準: 対到達目標	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	※ 自己評価基準: 対継続性	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき
--------------------	--	-------------------	--

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組2-1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。			
課題を解決する取組概要	加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催			
活動指標	開催数1回以上/年			
計画(4月記載)		自己評価(12月記載)		報告(3月記載)
1. 大学教育等に関する講演会等の開催 ・テーマ 加盟校の意向を調査したうえで決定 昨年度実施したアンケートにおいては、DXや(生成系)AIのテーマに関するニーズが多かったため、DX、AI関連を中心にテーマを検討する。 また、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が”いつでも・どこでも・だれでも”参加可能な仕組みを検討する。 2. FD・SDの共通化への取り組み 昨年度は事前調査として、「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアのヒアリングを行い、内部質保証、IRに関する回答が多く、若手職員の合同勉強会による人的ネットワークの構築を求める回答もあった。 今年度は詳細テーマ、実施方法・時期などを適宜加盟校の意向を調査しつつ、最初の取り組み方針を固める。				
達成目標に対する実績				
活動指標に対する実績				
自己評価基準: 対到達目標 ※				—
自己評価基準: 対継続性 ※				—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円				
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※
自己評価基準: 対到達目標

4: 当初計画を上回って達成
3: 当初計画を達成
2: 当初計画をやや下回った
1: 当初計画を下回った

※
自己評価基準: 対継続性

4: 本プログラムは継続すべき
3: 本プログラムは継続しても良い
2: 本プログラムの継続には改善が必要
1: 本プログラムは中止すべき

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組2-2)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。
課題を解決する取組概要	加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催
活動指標	FD・SDセミナー等開催数2回以上/年

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催 ・テーマ① 内部質保証の実質化関連 現在、多くの大学は、既に3巡目の認証評価を終え、引き続き内部質保証に取り組んでいると思われるが、その実質化は必ずしも十分とは言いきれないことも多く、内部質保証を機能させ、継続的に改善を図る必要がある。また、内部質保証のあり方に関して、大学関係者の話を聞く機会は多いが、評価機関の話を聞く機会は、自大学の受審時以外には、ほとんどない。 よって複数の評価機関から、「3巡目の評価結果を基に、評価機関の考える内部質保証の実質化のあり方と課題、優良事例」、「4巡目における内部質保証のあり方の方向性」等を講演やパネルディスカッションを通して学ぶ機会を提供する。 ※実施予定時期：2025年1月～3月 ・テーマ② データの可視化などIRスキル関連 IRにおいて、データ集約の後のデータ分析方法やIR業務全体における効率化など、加盟校ごとに状況は様々でありながらも、課題に感じられている部分が多々あることが想定される。 そこで、特にIR業務担当教職員向けに、IR業務において業務効率化に資するような実務研修を実施し、加盟校教職員の学びの機会とするとともに、加盟校教職員間での情報交換の促進を図ることとする。 ※実施予定時期：2024年6月～9月 ※上記2テーマともに、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が“いつでも・どこでも・だれでも”参加可能な仕組みを検討する。		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円				
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った	※ 自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 FD・SD委員会 事業予算】(案)

(単位:円)

		予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
			取組1		取組2			
			加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開		FD・SD情報交換会、セミナー等の開催			
			内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額
収入	会費収入	600,000				500,000		100,000
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	0						
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	600,000	0		500,000		100,000	
支出	会議費	110,000			懇親会	100,000	会議費	10,000
	旅費交通費	90,000			講師等交通費	80,000	旅費交通費	10,000
	通信運搬費	10,000					通信運搬費	10,000
	消耗品費	30,000			消耗品費	20,000	消耗品費	10,000
	新聞図書費	0						
	印刷製本費	0						
	光熱水料費	0						
	賃借料	105,000			会場費等	80,000	賃借料	25,000
	保険料	0						
	謝金	220,000			講師等謝金	220,000		
	租税公課	0						
	支払手数料	5,000					振込手数料	5,000
	諸会費	0						
	委託費	30,000					各プログラムHPに係る予備費	30,000
	人件費	0						
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
	雑費	0						
	計	600,000	0		500,000			100,000

収入－支出	0
-------	---

「加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開」情報共有の仕組み

2024年度の大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」という。）FD・SD 委員会事業「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」については、コンソ加盟校の協力を得て、以下のとおり実施します。

1. 「加盟校が実施するFD・SDセミナー」の公開について

本事業におけるFD・SDセミナーの「公開」とは、加盟校が実施するFD・SDセミナーへの参加枠を「自学以外」の「コンソ加盟校教職員に開放」することをいいます。

2. 「加盟校が実施するFD・SDセミナー」の情報収集及び情報提供について

加盟校が実施するFD・SDセミナーのうち、公開が可能であるFD・SDセミナーについて、下記のとおり情報の提供を依頼します。

（１）情報収集及び情報提供の担当窓口について

本委員会は、コンソ事務局の所有する「FD・SD委員会名簿」に記載の担当部署又は「コンソ担当者一覧」を通じて、上記のセミナーに関する情報の収集・提供を行います。

（２）加盟校からの情報提供について

- ① ご協力いただける加盟校は上記のセミナーに関する情報をコンソ HP 上の「**コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー情報提供フォーム**」により随時ご提供ください。
(セミナーの案内チラシ・実施要項・申込用紙等を併せてご提供ください。)
- ② なお、セミナー実施後はコンソ HP 上の「**コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー実施報告フォーム**」により「**最終参加人数**」をご報告ください。併せて、上記セミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等を可能な範囲で添付にご提供ください。

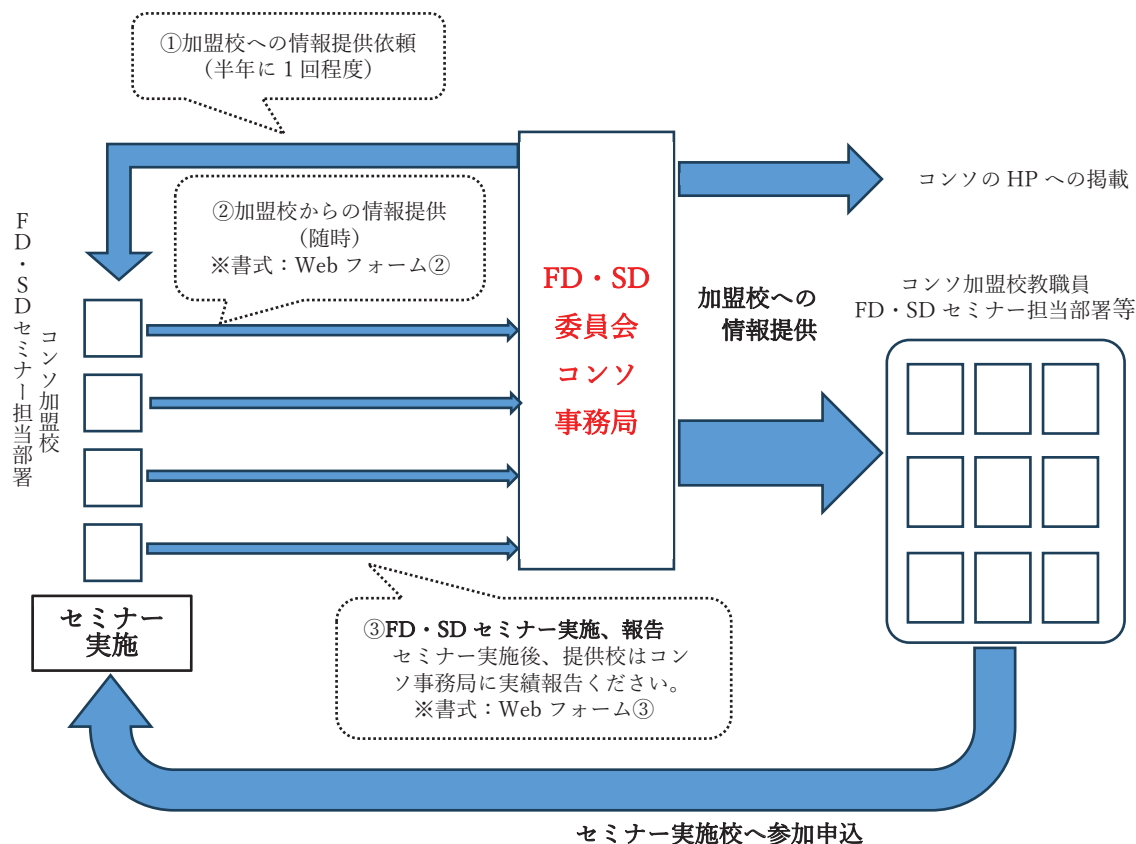
（３）加盟校への情報提供について

本委員会は、上記（２）により提供いただいた情報を取りまとめ、以下のとおり加盟校へ情報を随時提供します。

- ① 公開FD・SDセミナー
提供いただいた「公開FD・SDセミナー」をコンソのホームページ上に掲載するとともに、上記（１）の担当窓口等、加盟校教職員へメールにて送付します。
※ 各校においては、適宜の方法により学内に周知いただくとともに、セミナー実施校が示す方法により直接、参加を申し込んでください。
- ② 上記①のセミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等
上記（１）の担当窓口へ適宜の方法により送付します。
※ 学内又は加盟校のFD・SD担当者間での情報交換等にご活用ください。

3. その他

◎加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開イメージ図



① 「加盟校への情報提供依頼 (半年に1回程度)」

② 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー情報提供フォーム」 URL
<https://ws.formzu.net/dist/S502194952/>

* 情報提供は、上記フォームにて直接入力ください。

③ 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー実施報告フォーム」 URL
<https://ws.formzu.net/dist/S78326574/>

* セミナー実施後は、上記フォームにて直接ご報告ください。

4. 問い合わせ先

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局

FD・SD 委員会担当: 中水かおる・谷本啓吾

Eメール info@consortium-hyogo.jp

TEL: 078-271-0233 / FAX: 078-271-0244

コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー情報提供フォーム

※セミナーの案内・実施要項・申込用紙等を作成されている場合は、併せて添付ください。
 ※周知、周知期間を必要としますので、セミナー実施日の1ヶ月前を目安に情報提供ください。

大学名 必須	
セミナー名 必須	
セミナー概要・テーマ (50～150文字程度) 必須	
開催日 (西暦：年月日) 必須	
開催時間 (24時間表記／ 例：14：30～17：00) 必須	
種別 (FD/SD) 必須	▼
セミナー対象者 (記入例「加盟校教員、 常勤・非常勤不問」「ICTを用いた遠隔授業に関心のある教職員」「着任5年以内の職員」など) 必須	
セミナーの形式 (1) 必須	☐ 講義形式 ☐ パネルディスカッション形式 ☐ 参加者体験型 ☐ その他
セミナーの形式 (2) 必須	☐ 対面 ☐ オンライン ☐ ハイブリッド (対面・オンライン併用)
開催場所 (講義形式の場合)	
オンラインの場合 (使用ツール)、その他について補足事項あれば	
オンラインの場合 (オンデマンド配信) 必須	☐ あり ☐ なし ☐ 検討中
セミナー公開について (自学以外の参加者への公開区分) 必須	☐ 全て公開可 ☐ 一部公開可 ※備考欄に詳細を記入ください
募集人数 (全体) 必須	人
コンソ加盟校参加可能枠 (人数制限がある場合) * ない場合は「制限なし」と記載ください 必須	人

申込期限（年月日） *先着順の場合は（先着 ○人） 必須	
参加費 必須	☐ 有料 ☐ 無料
参加費（有料の場合）	円
申込・問い合わせ先 （担当部署名） 必須	
（ご担当者名）	
申込・問い合わせメール アドレス 必須	 確認用
申込サイト等がある場合 （URL）	
電話番号 必須	- -
本件ご記入者（コンソ・ FDSD委員会からのご確 認用） 必須	
（当日配布資料のコンソ ーシアム事務局への公 開）	☐ 全て公開可 ☐ 一部公開可 ☐ 資料公開不可
（実施後の事業報告書・ アンケート結果のコンソ ーシアム事務局への公 開）	☐ 全て公開可 ☐ 一部公開可 ☐ 資料公開不可
備考・連絡事項	
添付ファイルがある場合	ファイルの選択 ファイルが選択されていません 6Mバイトまで <u>複数ファイルを送るには</u>

[内容確認画面へ](#)

コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー実績報告フォーム

※セミナーの実施後、「最終参加者人数」を速やかに、下記フォームにご入力にて、ご報告ください。「FD・SDセミナーの公開」を利用した加盟校からの参加者を年度末にまとめて報告します。

大学名 必須	
セミナー名 必須	
開催日(西暦：年月日) 必須	西暦 年 月 日 
開催場所 必須	
参加者数 (合計) 必須	名
内訳1：学内(講演者等含む)	名
内訳2：コンソ加盟校 (校数) ※自学以外の加盟校	校
内訳3：コンソ加盟校 (人数) ※自学以外の加盟校	名
上記2,3の内訳「学校名(人数)」をご記入ください。 例) コンソ大学(2)、コンソ短期大学(3) ※()と数字は半角で入力ください。 ※追加の学校名がある場合「、(全角)」で区切ってください。 必須	
内訳4：コンソ加盟校以外 (校数)	校
内訳5：コンソ加盟校以外 (人数)	名
内訳6：その他 (人数)	人
本件ご記入者 ※コンソ・FDSD委員会からのご確認用 必須	氏名 部署名
メールアドレス 必須	 確認用
電話番号 必須	- -
備考・連絡事項	
添付ファイルがある場合	ファイルの選択 ファイルが選択されていません 6Mバイトまで <u>複数ファイルを送るには</u>

[内容確認画面へ](#)

2023 FD・SD事業に関するニーズ調査（FD・SD委員会） 回答まとめ

資料 5

実施期間：2023年12月12日～25日 対象：FD・SD委員会委員校24校

回答校：14校

【質問】FD・SD研修において、貴学が他の加盟校と「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアについて、自由にご記入ください。実施したいが、単独では実施が難しいテーマや人事研修（階層別・テーマ別）も含む。

※本アンケート回答校のうち、5校より「FD・SD共通化」に関する回答があった。

回答	とりあげてほしいテーマ	理由	回答校
内部質保証・IR	内部質保証	どの大学にも共通で求められていることなので。	兵庫県立大学
	大学教員による専門研修（IR等）	大学ならではのSDとして研修を実施し、併せて大学間の情報交換、交流を行う。	神戸大学
	IRデータの活用	本学内では担当者が少なく、研修を実施する規模ではないため。	神戸親和大学
	IR	IRとは聞くけれども専門職がない。実際の事務としてどのように考え、実行するか、ロールモデルがあれば学びたい。	神戸薬科大学
若手職員の勉強会	若手（1～5年目）職員の勉強会（学校法人会計基準、資料作成方法等）	県内の大学（学校）職員での勉強会や情報交換会を通じて、人的ネットワークの構築や、各大学の取り組み等の情報収集につなげる。	甲南大学

（参考）【質問】次年度以降の「加盟校でのFD・SDセミナーの公開」「大学教育等に関する講演会」等の事業計画において、取り上げて欲しい研修・セミナーのテーマについて、貴学が希望する内容をご記入ください。例：生成系AI、大学運営、内部質保証、危機管理etc

※本アンケート回答14校の回答は以下の通り。

分野	とりあげてほしいテーマ	理由
大学経営・大学運営	大学経営	本学では、自律的な研究教育基盤を確立するため、経営人材の育成を目指しているため。
	内部質保証	各大学の取組状況を確認したい。
	内部質保証	内部質保証は継続的な重要事項であるため、常に新しい情報を発信いただきたい。
	学生の主体性を活かしたカリキュラムマネジメント	学生の声を上手に生かしていくにはどうしたらいいか、先行事例があればうかがってみたい。
法制度	障害者差別解消法における大学の対応について	来年度から合理的配慮の提供が義務化されることに伴う問題点（目に見えないような障がいに対する対応）や、具体的な対応方法を示していただけるとありがたい。
業務改善	BYODの先行事例	BYODに関して、本学の先行事例創出がうまくいっていない部分があるため。
専門性の高い取組事例	理系学部設置等の支援について 大学・高専機能強化支援事業：理・工・農×「デジタル」「グリーン」分野への転換	本学ではできない、実践的で特に専門性の高い取り組み。 理系学部新設等を支援する事業に67大学を選定一文科省 甲南大学様（環境・エネルギー工学科）、関西国際大学様（情報学部情報学科）など加盟校で2校実績があり、公開いただければタイムリーで有益な情報となると思われます。
	教員養成フラッグシップ大学	本学ではできない、実践的で特に専門性の高い取り組み 兵庫教育大学様、令和4年3月9日に文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」に指定、来年度あたりに実績が出ると想定されます。セミナー等で公開いただけると大変ありがたいです。
情報・デジタル技術（DX、生成AI）	DX、AI	情報系の専門教員がいないので、DX化の方向性や方法、AI規制への対処など、喫緊の課題に対する一定の方向性を知りたい。
	生成AI	FDのニーズはあると思われるのですが、本学教員で生成AIのFD講師を受けてくれる先生がいなかったため。
	生成系AI	日進月歩の生成系AIについて高等教育機関としてどのように活用していくかということが課題であるため。また、少子化を迎え、高大連携の必要性とあり方の共通理解が必要であると考えるので。
	生成系AI	他大学での授業内の生成系AIの活用事例や、ICTが苦手な教員に学生が生成系AIを使用する上での注意点を理解していただきたいため。
高大連携・高大接続	高大連携	少子化を迎え、高大連携の必要性とあり方の共通理解が必要であると考えるので。
	探究学習	探究学習については、近年入試方式にも採用される等、注視すべきトピックであるため。

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期
(2022年度～2026年度)

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期(2017年4月1日～2022年3月31日)における取組内容とその成果を継承して、中長期計画Ⅱ期(2022年4月1日～2027年3月31日)を策定する。さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多元的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多元的な教育活動に寄与する計画とする。

[ビジョン・目標]

大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

兵庫県内の大学が連携して、地方自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発するとともに、人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する大学コンソーシアムひょうご神戸の取組を通じて、兵庫県と加盟校の魅力を県内外に発信する。兵庫県内の若者人口の増加、大学教育・地域創生への貢献が明確に可視化される活動を展開する。

大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる場をめざす。

大学コンソーシアムひょうご神戸が、大学間連携組織の特徴を生かして、産官学連携による人材育成・教育支援に取り組み、地域に貢献できるような大学プラットフォームを構築する。そのために以下の4つの柱での取組事業を実施する。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携
2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援
3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供
4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

[体制] プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



加盟校数、賛助会員数は、2024 年4月現在

[具体的な取り組み内容]

上記の課題を踏まえ、中長期的な目標を設定し、①情報の共有と発信②人的交流の促進③ステークホルダー（地方自治体・企業・地域・高等学校等）との有機的連携の3つを重点項目として取り組む。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携

①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上

（加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携）

【取組1】大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施

（目標）本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上

（内容）兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業への就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。

（担当）キャリア部門

【取組2】県内企業・団体等の魅力を情報発信

（目標）情報公開企業・団体数120社以上

（内容）地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公表するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める。

（担当）キャリア部門

②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続

【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施

（目標）各年参加校数20校以上

（内容）教育委員会等と連携して兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行い、兵庫県下の高大連携を深める。

（担当）高大連携部門

【取組2】加盟校の魅力を情報発信

（目標）各年情報提供先数 高等学校等 200 か所以上

（内容）加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。

（担当）高大連携部門

③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進

【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

（目標）各年参加者数 50 名以上

（内容）他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクトを実施する。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

（担当）学生交流部門

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

（目標）情報公開数 200 取組以上

（内容）加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開する。各年、継続的に事例紹介を重ねることにより、本計画期間内で 200 取組以上を紹介する。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。

（担当）学生交流部門

2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援

④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進

【取組1】留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施

（目標）本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の 70%以上。

（内容）“ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル人材育成を目指した事業を展開する。プラットフォームを活用した留学生就職促進事業として、大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することでの留学生の受入環境づくりを促進し、卒業後の県内企業への就職の動機付けを図る。

（担当）キャリア部門

⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進

【取組1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施

（目標）本プログラムへの参加を通じて、国際理解が深まったことを実感する学生の割合
：参加学生の80%以上（期間中2回測定）

（内容）兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（日本学生支援機構委託事業）において、大学間連携による国際交流の拠点を、兵庫国際交流会館を起点に大学キャンパス外の地域社会に形成することを推進する。留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。

（担当）国際交流部門

【取組2】加盟校の国際交流プログラムとの連携促進

（目標）本プログラムへの参加を通じて、国際理解が深まったことを実感する学生の割合
：参加学生の80%以上（期間中2回測定）

（内容）大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを生かして、加盟校主催の国際交流イベントの情報を収集し、加盟校間の情報共有を行う。本計画期間内において、段階的に加盟校が主催する国際交流プログラムと連携することにより、大学の枠を超えた加盟校間の留学生・日本人学生等の交流を促進させる。

（担当）国際交流部門

3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供

⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

【取組1】加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

（目標）各年セミナー数5件以上

（内容）加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

（担当）FD・SD部門

【取組2】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

（目標）各年参加者数50名以上

（内容）加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

（担当）FD・SD部門

⑦大学間連携による多様な教育ニーズへの対応

【取組1】単位互換事業の実施

（目標）各年開放科目数10科目以上

(内容) 加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。
(担当) 教育連携・教務部門

【取組2】多様な学修機会の提供

(目標) 各年プログラム数 5 件以上

(内容) 加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する (ICT を活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等)。

(担当) 教育連携・教務部門

⑧県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進

【取組1】リカレント教育の普及促進に向けた取組

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校によるリカレント教育の推進・理解促進に向けたセミナー・情報交換会等を開催する。産官学で連携したリカレント教育推進に関するネットワークを構築する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

【取組2】加盟校のリカレント教育に関する情報発信

(目標) 各年 10 校以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページで加盟校が開講するリカレント教育に関する取組情報を発信する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

⑨大学資源を活用する地域プラットフォームの形成

【取組1】大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築

(目標) 大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充

(内容) 兵庫県下で大学間連携のプラットフォームとして、加盟校の大学資源を生かす運営体制を本計画期間内において、段階的に構築する。また、加盟校がすでに有している大学間連携・地域・地方自治体との連携体制の理解促進も図る。

(担当) 企画運営委員会

【取組2】緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築

(目標) 緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築

(内容) 感染症 (新型コロナウイルス感染症等) や災害対応等、災害・緊急事態対応等の不測の事態に備えて、定期的に加盟校が蓄積する経験や知見の情報収集を行い、共有す

る。本計画期間内において、段階的に情報共有を重ねることにより、有事の際に速やかに情報共有・情報提供ができる体制の構築を目指す。

（担当）企画運営委員会

⑩県内大学が活性化する事業運営体制の整備

【取組１】加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進

（目標）加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築

（内容）加盟校教職員が大学間連携活動に積極的に参画できる事業運営体制を本計画期間内において、段階的に検討・構築する。同じ課題を有する加盟校による小グループで課題の共有、ICTの活用、プロジェクト型での事業推進等のニーズに合わせて、事業運営体制の整備に取り組む。

（担当）企画運営委員会

上記の中長期計画に基づき、各年度毎の事業計画を別途作成し、各プログラムの具体的な活動指標を個別に定めて事業を推進する。なお、中長期計画を実施する計画ならびに担当については、年度毎の見直しにより変更することがある。

以 上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会の運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸(以下「コンソ」という。)定款第 38 条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 委員等

事業委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1)正会員の教職員で、原則 2 名(教員 1 名、職員 1 名)。
- (2)毎年度、第1回委員会開催までに委員をコンソ事務局に登録する。

3. 事業委員会の組織及び所管事項等

- (1)事業委員会は、委員長校と副委員長校を置く。ただし、副委員長校は複数校置くことができる。
- (2)委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議等、行う。
- (3)副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行する。

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

- (1)任期は 2 年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないよう配慮する。
- (2)国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選抜制とし、キャリア委員会及び FD・SD 委員会の委員長校の選考は輪番制とする。
- (3)6 事業委員会の副委員長校の選考は、選抜制とする。
- (4)任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選抜制】

- ①選抜制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選抜することとする。
- ②事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

【留意事項】

- ①選抜制 4 事業委員会の正副委員長及び輪番制 2 事業委員会の委員長については、原則として、理事校が担当するものとする。ただし、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができるものとする。
- ②選抜制と輪番制では、輪番制を優先するものとする。
- ③1大学が重複して正副委員長校を担当することがないように調整する。

【経過措置】

- ①委員長校及び副委員長校の選考方法については、2023 年度より選択制及び輪番制を導入する。
- ②委員長校及び副委員長校の任期については、2023 年度からの担当期間を原則として 3 年間（2023 年度～2025 年度）とする。
- ③2026 年度～2027 年度の委員長校及び副委員長校については、過去の就任実績を鑑みて 2025 年度後期に検討するものとする。

4. 事業委員会の任務

- (1) 事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業委員会内で事業の具体的な計画・実施・報告(自己評価)を行い、情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

- (1) 事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。
- (2) 事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則 2 名の委員」に拘らず、計 3 名以上の者若しくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件(定足数)

- (1) 事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。
- (2) 委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。
- (3) 「委任状」の制度は用いない。
- (4) 事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

7. 議決権及び議決数

- (1) 正会員あたり各 1 個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

8. プログラム担当校

- (1) 事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。
- (2) プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告(自己評価)を行う。
- (3) 委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

9. 事業委員会事務局

- (1) 事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局(委員長校・副委員長校)が連携して行う。

10. 改廃

- この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

附則

この申し合わせは、2019 年4月1日から施行する。

附則

(1)この申し合わせは、2022 年4月 1 日から施行する。

(2)「3.委員長校、副委員長校」の任期について、2022 年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め 1 年とする。

附則

この申し合わせは、2023年4月 1 日から施行する。

以 上

委員長校 : 甲南大学

副委員長校: 神戸市看護大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学
神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学
神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学
兵庫県立大学 計24校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。

以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

<内容>

1. 加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・「大学運営」に関する科目の受講支援等

2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・FD・SDトップセミナー等

以上の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5か年において段階的に取り組む。

期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		予算額
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

【2023年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組1)】(案)

【⑥取組1】達成目標		各年セミナー5件以上			
【⑥取組1】活動指標		参加者数100人以上/年			
課題⑥		大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標【⑥取組1-1】		大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。			
課題を解決する取組概要【⑥取組1-1】		加盟校間でのFD・SDセミナーの公開			
活動指標【⑥取組1-1】		参加者数100人以上/年			
内容 (結果)		「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、以下の通り計画・実施した。 1. 情報収集 Webフォームにて、加盟校のFD・SDセミナー(学外公開可のもの)の情報収集を通年で行った。 2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行った。 3. 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求めた。 【結果】10校21件の公開セミナーに対して、1,674名の参加があった。 詳細は以下の通り、学校名(50音順)・公開件数・開催日時・セミナー名・参加者数・内訳で明記。 ■大手前大学・大手前短期大学(1件) (1)2023年9月1日「ICT活用推進シンポジウム」174名(学内124名、加盟校1校1名、他大学5校6名、その他43名) ■甲南大学(2件) (1)2023年11月29日「教育学習DXプロジェクトに関するFD・SD セミナー ～2023年度VRを用いた英語学習アクティビティの開発～」10名(学内9名、加盟校1校1名) (2)2024年3月7日「高等学校における探究学習に関するFD・SDセミナー」47名(学内35名、加盟校11校11名、その他1名) ■関西学院大学(2件) (1)2023年8月31日「大学の授業と著作権について」173名(学内29名、加盟校11校24名、他大学81校118名、その他2名) (2)2024年3月21日「大学入学者選抜の過去・現在・未来」128名(学内45名、加盟校4校5名、他大学34校48名、その他30名) ■神戸学院大学(9件) (1)2023年4月28日「学生を評価主体として育成するためのルーブリックの活用」55名(学内39名、加盟校10校15名、他大学1校1名) (2)2023年6月9日「自学自習を促すシラバス作成法」計28名(学内20名、加盟校6校6名、その他1校2名) (3)2023年7月7日「大学における人間関係と教員の役割」計34名(学内29名、加盟校4校4名、その他1校1名) (4)2023年9月4日 神戸学院大学薬学研究科主催令和5年度「知の創造セミナー」計54名(学内53名、その他1名) (5)2023年9月5日「これからの高大社接統を考える～アフターコロナの観点から～」計43名(学内38名、加盟校2校3名、他大学1校1名、その他1名) (6)2023年9月30日「専門職連携教育(Interprofessional Education) 5周年記念シンポジウム これからの専門職連携教育を考える」158名(学内150名、加盟校1校2名、その他6名) (7)2023年11月10日「ゼミ運営における学生同士の学びのプロセスと人間関係」27名(学内25名、加盟校2校2名) (8)2023年12月19日「データ活用人材を育てる ～いま、求められる文理融合型データサイエンス教育と大学必修化の背景～」40名(学内35名、加盟校5校5名) (9)2024年1月26日「知の創造セミナー」49名(学内48名、その他1名) ■神戸松蔭女子学院大学(3件) (1)2023年8月7日「大学教育におけるPBLの開発に向けて」70名(学内64名、加盟校4校4名、他大学1校2名) (2)2023年9月8日「学生の主体的な学びを促す動画教材」62名(学内62名) (3)2023年9月8日「課題解決型授業から課題解決授業へ」64名(学内64名) ■神戸親和大学(1件) (1)2023年8月24日「Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について」139名(学内63名、加盟校15校76名) ■神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部(1件) (1)2023年9月11日「これからの時代に応じた大学入試や大学改革の方向性を探る」122名(学内114名、加盟校6校8名) ■兵庫大学(2件) (1)2023年11月8日「GIGA世代と大学教育に求められる変化」116名(学内113名、加盟校3校3名) (2)2024年3月7日「主体的に学ぶ学生を育てるために～ 授業と学習環境のデザイン ～」81名(学内75名、加盟校4校5名) 3)FD・SDセミナーの実施内容に関するアンケートを実施。 引き続き、加盟校のニーズに合うセミナーの公開と、参画校の拡充に取り組む。 FD・SD研修において、他の加盟校と「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアについて、アンケート実施。実施したいが、単独では実施が難しいテーマや人事研修(階層別・テーマ別)も含む。14校より回答があり、「内部質保証、IR、若手職員の勉強会」等に関する回答があった。			
新しい試み等 (事業計画に記載)		FD・SDセミナーの公開実施校が実績(参加者数)を報告する「実績報告フォーム」のWebフォームの入力項目を整理することで、自学以外の加盟校の参加状況を集約・報告しやすい形式に整えた。			
事業収支		収入	支出	収支	備考
		0円		0円	0円
自己評価		【対到達目標】	4	【対継続性】	4
		前年度(2022)通年実績6校13件に対して、今年度は期中(10月末)で、すでに6校13件の情報提供があった。本取組についての加盟校での認知が広がり、一定のニーズがあると考えられるため、本プログラムは継続すべきと考える。			
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)		約半年間で活動指標・達成目標ともに達成されており、加盟校にも認知が広がっていることは評価できる。実施内容に関するアンケート結果から、今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取り組みを進めていただきたい。			

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

【2023年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組2-1)】(案)

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上		
【⑥取組2】活動指標	FD・SDセミナー開催数3回以上/年		
課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標 【⑥取組2-1】	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。		
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-1】	加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催		
活動指標 【⑥取組2-1】	開催数1回以上/年		
内容 (結果)	大学教育等に関する講演会等の開催 ■セミナー名「いま一度整理しよう！令和4年度大学設置基準等の改正を学ぶ！」 ■日時:2023年9月6日(水)14:00～16:30 ■場所:甲南大学岡本キャンパス 1号館131講義室 ※加盟校職員以外は第1部オンライン参加のみ ■講師:文部科学省高等教育局視学官(併)大学教育・入試課 課長補佐 中村 慎太郎 氏 ■内容:2022年10月より大学設置基準等の改正が実施されたが、改正内容への対応等に苦慮する大学も多々あることが想定されることから、基本的な改正要旨や概要から、主要授業科目、基幹教員、教職協働の促進などの個別テーマにも焦点をあてた講演と意見交換会を2部制で開催した。 第1部:基調講演「令和4年度大学設置基準改正について」 講師の中村氏より、「1.グランドデザイン答申等について」「2.大学設置基準等の改正について」「3.今後の教職協働の在り方について」の3点に関する説明と、参加者からの事前質問に対する詳細な回答がなされた。加盟校を中心にオンライン参加を含めて全国各地から130名の参加があった。 第2部:質疑応答・意見交換会 ※会場参加者のみ 講師の中村氏と加盟校教職員のみで、質疑応答及び意見交換を行った。自学の実情を踏まえた具体的な質問や日々の業務上での疑問点について、率直な意見交換が行われた。 ■参加者:総計130名(会場87名、オンライン43名) (内訳)加盟校21校75名 芦屋大学(1)・大手前大学・大手前短期大学(6)・関西学院大学(3)・甲南大学(28)・神戸学院大学(1) 神戸市外国語大学(5)・神戸市看護大学(3)・神戸松蔭女子学院大学(6)・神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部(1)・神戸親和大学(3)・神戸大学(3)・神戸薬科大学(1)・園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部(3)・兵庫大学・兵庫大学短期大学部(6)・兵庫教育大学(1)・兵庫県立大学(3)・流通科学大学(1) 非加盟校37校45名、国・自治体2名(文部科学省(1)・神戸市(1))、企業2団体・2名、コンソ事務局6名		
新しい試み等 (事業計画に記載)	第一部は、オンラインと対面会場のハイブリッド形式で、時間的制約で参加できない加盟校教職員の参加機会を考慮し、広く内容を公開する形式で行った。また、加盟校の課題等を講師とダイレクトに忌憚なく相談できる機会を設けるため、第二部については対面参加の加盟校教職員のみとする形で実施した。		
事業収支	収入	支出	収支
	500,000円	500,000円	0円
備考 取組2-1、2-2 の合計			
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】
	本セミナーの参加理由に、「大学運営にあたり改めて理解を深めたい」など、業務遂行上の必要性、実践的な学びを深めることへの関心があった。加盟校に限定した文部科学省担当者との対面での質疑応答では、「他大学様も本学と同じような疑問等を持っておられたので、大変勉強になった」等、加盟校でセミナーを実施する意義が伺えた。実施アンケートからも引き続き、「時宜を得たテーマを希望する」といった意見が挙がっており、本プログラムは継続すべきと考える。		
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		
	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	大学運営に関わるテーマなど、加盟校が共通に抱える課題は、大学単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義があると考えられる。今後も継続して時宜を得たテーマで講演会等を実施いただきたい。加えて、加盟校教職員の交流促進も期待する。		

【2023年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組2-2)】(案)

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上		
【⑥取組2】活動指標	FD・SDセミナー開催数3回以上/年		
課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標 【⑥取組2-2】	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。		
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-2】	加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催		
活動指標 【⑥取組2-2】	FD・SDセミナー等開催数2回以上/年		
内容 (結果)	「内部質保証システム」をテーマとしたFD・SDセミナーを開催し、加盟校での啓発活動を行うと共に、実務的な勉強会を実施予定である。 【1件目】 ・セミナー内容:「中退予防におけるIR」 ・講師:白鳥 成彦 氏(嘉悦大学 経営経済学部 教授) ・開講日時:2024年2月20日(火)14:30～16:30 ・開催方法:甲南大学岡本キャンパス5号館523教室、オンライン(オンデマンド) - 申込者参加者:64名(会場42名、オンライン22名) ※講師・事務局含む (加盟校:14校30名、非加盟校:26校30名、企業:1社2名、コンソ事務局2名) - 加盟校内訳:14校30名 - 大手前大学・大手前短期大学(2)・関西学院大学(1)・甲南大学(16)・神戸大学(1)・神戸学院大学(2)・神戸国際大学(2)・神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部(1)・甲南女子大学(1)・神戸女学院大学(1)・姫路大学(1)・兵庫大学・兵庫大学短期大学部(2) 【2件目】 ・セミナー内容:「内部質保証システムの実質化を考える～現場が動き出す！工夫と実践～」 ・講師:鳥田 敏行 氏(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部 教授) - 山咲 博昭 氏(広島市立大学 教育基盤センター講師/センター長補佐(兼)大学評価・IRセンター講師(兼)理事長室副室長/理事補佐) ・開催日時:2024年3月11日(月)13:00～17:00 ・開催方法:甲南大学岡本キャンパス2号館2-41教室、オンライン(Zoom) - 参加申込者:113名(会場24名、オンライン89名) ※講師・事務局含む (加盟校:16校26名、非加盟校:56校76名、企業・団体:7社9名、コンソ事務局2名) - 加盟校内訳:16校26名 - 芦屋大学(1)・大手前大学・大手前短期大学(1)・関西国際大学(1)・関西学院大学(3)・甲南大学(5)・神戸大学(2)・神戸医療未来大学(1)・神戸学院大学(1)・神戸市看護大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(1)・神戸親和大学(2)・兵庫大学・兵庫大学短期大学部(1)・兵庫県立大学(5)・流通科学大学(1)		
新しい試み等 (事業計画に記載)	本年度当初に各校委員にテーマと講師候補者に関するアンケート調査を行い、そのニーズや意見を反映して加盟校教職員の知見や助言を生かしながら、テーマ・講師選定を行うことができた。		
事業収支	収入	支出	収支
	500,000円	500,000円	0円
備考 取組2-1、2-2 の合計			
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】
	現時点では(2023年10月31日)、本取組は計画通りに進んでおり、年初のアンケート回答からも内部質保証セミナーに関するニーズは一定数あると考える。また、加盟校教職員の中にもテーマに応じて、協力いただける状況が生まれているため、本プログラムは継続すべきと考える。		
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		
	■自己評価基準 (対継続性)		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		
	認証評価等において、近年内部質保証が重視されている一方で、加盟校においては体制作りから実質化まで、苦慮されている現状があると思われる。単発のセミナー開催にとどまらず、継続的に加盟校に役立つセミナー等の開催並びに、教職員間の交流促進を図る仕組みを検討いただきたい。		

2023年度 FD・SD委員会 事業決算(案)

(単位:円)

		予算額	決算額	各プログラム 予算・決算						委員会 予算・決算		
				取組1			取組2					
				加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開			FD・SD情報交換会、セミナー等の開催					
				内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額
収入	会費収入	600,000	584,825					500,000	500,000		100,000	84,825
	助成事業収入	0	0									
	受託事業収入	0	0									
	プログラム収入	0	0									
	雑収入	0	0									
	戻入金	0	0									
	計	600,000	584,825	0		0	500,000		500,000	100,000		
支出	会議費	110,000	20,020				懇親会	100,000	20,020	会議費	10,000	
	旅費交通費	90,000	141,567				講師等交通費	80,000	139,447	旅費交通費	10,000	2,120
	通信運搬費	10,000	0							通信運搬費	10,000	
	消耗品費	30,000	0				消耗品費	20,000		消耗品費	10,000	
	新聞図書費	0	0									
	印刷製本費	0	64,578				資料コピー代		64,578			
	光熱水料費	0	0									
	賃借料	105,000	0				会場費等	80,000		賃借料	25,000	
	保険料	0	0									
	謝金	220,000	177,765				講師等謝金	220,000	177,765			
	租税公課	0	0									
	支払手数料	5,000	4,895							振込手数料	5,000	4,895
	諸会費	0	0									
	委託費	30,000	176,000				委託費		98,190	各プログラムHPに係る予備費	30,000	77,810
	人件費	0	0									
	接待交際費	0	0									
	支払支援金	0	0									
	雑費	0	0									
	計	600,000	584,825	0		0	500,000		500,000		100,000	84,825

収入－支出

15,175